



駒本の力

駒本小学校（家）

教育活動紹介便り

NO. 46

平成29年7月4日

言葉遣いの指導の質を高める

校長 田中 克昌

本年度駒本小は、全ての教育活動において、「一步先の質の向上」を目指しています。授業力の向上においては、駒本小の授業スタイル（ユニバーサルデザイン化、個に応じた支援）を確実に身に付けた上で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けての努力をスタートさせています。前号では、「読書の質を高める」ために、駒本小ではどんな取組を実践しているかについて紹介しました。今回は、生活指導部において取り組んでいることについて説明します。

学校の組織は、大きく分けると教務部という教育活動全般に関わる事務を担当する分掌組織と、児童の生活や安全を担当する生活指導部という分掌組織があります。生活指導部では、安全な登下校や避難訓練、学校内外での生活、いじめの問題や不登校への対応といったように、広範囲にわたって、子どもたちの生活や安全に関わる業務や指導を担当しています。今年も、柳田主任教諭が生活指導主任を担当しています。

駒本小では今まで、生活指導関係として、学校教育目標の「元気な子」の具体的な姿として、居ずまいを正した挨拶や靴箱の靴の入れ方「くつピタ」の指導といった礼儀正しさの指導に力を入れてきました。校門前での挨拶は、ほぼ100%の児童が居ずまいを正した挨拶ができています。これはできてしまえば当たり前のことですが、とても高い達成率であると思います。さらに、校舎内での「こんにちは」の挨拶にも力を入れてきました。これは現在、先生方の大人から率先して行っていますが、子どもたちからも自主的に「こんにちは」の声が聞こえるようになってきました。

今年もこれらの成果の上に立って、子どもたちの言葉遣いの指導に重点的に取り組んでいます。

子どもたちに求める具体的な姿は、

「授業中において先生に対しても、クラスの仲間に対しても、丁寧な言葉遣いで話すことができる」という姿です。

言葉遣いは単に礼儀正しくということから、自分も相手も大切にできるという人権教育の目標にも合致した取組です。人が人として社会を形成し互いに助け合いながら生きていくためには、この**自他共に大切にできる人権意識の育成**が何よりも大切です。この意識が幼き頃から培われることによって差別やいじめのない社会の形成に大きく貢献していきます。また、言葉は心の鏡です。心が荒れているときは、言葉が荒れます。言葉が荒れているときは、心も荒れています。そして、**言葉が荒れてくると心も荒れてきます**。大人である私たちも子どもたちも、相手を思いやることができる心を磨いていくため

に、互いに丁寧な言葉遣いに努力していこうと考えています。

学校では以下のような取組を行っています。

1. 先生から率先垂範

先生方は、子どもたちに対しても丁寧な言葉遣いで話すようにしています。まず、先生方から率先垂範で手本を示す努力をしています。

2. 「です。」「ます。」から始めよう

授業中には、答えるときに単語で終わらず、「ーです。」「ーます。」というところまで言えるような、語尾指導に力を入れています。

3. 大人に対する丁寧語

先生を始めとする学校にいる大人に対して、丁寧語を中心とした敬語で話ができるように指導しています。

4. アサーションプログラムの充実

ここ数年取り組んでいるアサーションプログラムを充実させ、相手も自分も大切にしたいコミュニケーションスキルの学習をしています。その一環は先日の土曜授業公開で4年5年6年が授業を公開しました。

5. ニコニコ言葉の一行詩

先週は「ニコニコ言葉の一行詩」というものに取り組み、相手をニコニコにできる言葉について一行詩を作るという活動を通して、ニコニコ言葉の大切さを学んでいます。

6. 家庭教育として

家庭でも自分よりも年上の人に対してや、仲間に対しても公的な場所では、丁寧な言葉遣いをすることが大切であることを社会に生きる一人の先輩として子どもたちに家庭教育として指導していただきたいのです。学校での指導よりご家庭での指導の方がはるかに効果的です。

以上の取組を年間を通して実施していきますので、よろしくお願いいたします。

教室不足問題の解消と快適化工事に向けてご協力をお願いします

来年の平成30年度のスタート時には、2つの教室が不足するという状態が予想されています。すでに今年は、1教室が不足した状態のままで教育活動を実施しています。しかしながら、現在の駒本小には教室の不足に対応できる空き教室はありません。そのため教育委員会を始め関係者との協議をスタートさせ、この教室不足問題に取り組んでいきます。全ての子どもたちや保護者が関係している大切な事ですので、校長としては、できるだけ公開できる情報を早い段階で公開し、関係者との協議を経てご理解とご協力をいただけるよう努力していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、平成30年度と31年度には、学校快適化工事という、大がかりな内装工事を中心とした工事が予定されています。この工事でも全ての教育活動に大きな影響があります。私たち学校は、この教室不足問題と快適化工事に向けて、子どもたちの教育活動の維持を最優先にしながら、計画を考えて参ります。